

# PMR 資格試験への挑戦 2

## 自分の強みを活かした受験

石橋 伸介

### ■ 受験動機

私が PMR を受験しようと思ったのは、理事長からの推薦メールがあったことと事務局でお世話になっている西尾さんが言われていた「石橋さんも受ければいいのに」という一言です。正直言って、広島という地方に居て、しかも独立してコンサルタント業や企業のシステム開発のアドバイザー等をしていると「今更勉強も資格もないだろ」という気持ちの方が強く、受験には消極的であったのですが、考えてみると 2003 年に PMS を受験した時も会社から取れと指示されたわけではなく、すでに取得した優秀な後輩が「石橋さんも取ったらいいですよ」という一言で教本を借りて独学で勉強し私費で受験したのです。これは何気ない一言が、何気なく私の心を動かし、偶然に合格したと言うことです。私も何気なく「〇〇さんも受けたらいいのに」と周りに発言していこうと思います。

### ■ 受験の感想

試験を受ける行為は何年もしていなかったもので、どうやって備えれば良いか分からなかったが、PMR 紹介セミナーをオンラインで受講させていただき概要を理解した。印象に残ったアドバイスが 2 点あり。1 点目は「文字数制限は絶対を守る…しかしなるべく MAX まで書くこと（書かないと評価の仕様がでない）」、2 点目は「3S モデルは P2M の核であり必ず出題される」です、どちらも久しぶりの試験には有効なアドバイスでした。試験構成は一次試験、二次試験とあるが実際は 4 回の 5 日間を使用、しかも長い期間です。

① 一次試験（筆記 11/13：CBT 会場で 180 分 4 問、面談 11/27：ZOOM オンライン）

② 二次試験（モジュール 1/15-16：2 日間グループ現地、面談 1/29：ZOOM オンライン）

180 分の筆記試験では水の持込みも禁止されるなど厳格で、問題内容も実際の現場で起きた話（実際には架空）で気持ちが引き込まれ、あっという間に終了時間が来てしまった。また、モジュール試験はワークショップ方式の試験で、それぞれまとめ役やサポート役を演じながら付箋紙を使ってのディスカッションや問題解決を試験官に提示する試験です。アドバイスとしては自分の特徴を理解して活かすこと。私の場合は、モジュール試験時にリーダー役がうまく出来なかったが、面談試験で「進む方向は同じでもやり方は千差万別、私はリーダーシップがある方ではない、サーバントリーダーとして自覚している、その為…」と自分をしっかりと試験官にアピールし、モジュール試験中に足りなかった部分を補えたのだと思います。モジュール試験後は確実に落ちたと思っていました（笑）

### ■ PMR としての展望

幸運にも合格した PMR でしたが PMS とは異なる資格継続になるようです。今までは知識体系の習得がメインであり、セミナーやシンポジウム出席でポイントがもらえていたが、PMR はプロジェクトでなくプログラムを実施してのポイントになるらしく（まだ良く解っていないが）より難しくなっているようです。すでに継続できる自信がない（汗）がしかし、面談試験官の人と面談で話した時に PMR としての価値観やその啓蒙について何となく感じたものがあるのでそれを実践していこうと思います。試験費用もそれなりに高額であったので最低でも 5 年間は PMR として、資格に恥じない行動をしていこうと思う。PMS20 年 PMR5 年なら、なんとなくその道でやってきた感じでしょうか？健康年齢のこともあり、そろそろ人生のまとめのような年齢ですが、出来る限り社会のお役に立ちたい、そのために PMR が活かせればと言う気持ちです。



【プロフィール】 石橋 伸介 (いしばし しんすけ)

エス・アイ・コンサルティング 代表

広島地場の独立系のソフトウェア会社に勤務し、IT 系プロジェクトの PM を歴任。2011 年に一念発起で独立、それまでの経験を活かして、IT コンサルタント業に転身。中小企業の CIO 的役割から、大学の研究者、Ruby on Rails での WEB 業務システム開発などなんでも行っています。資格等は、MOT、CICA、CSM、ITC、を保持しており、コミュニティ活動も中四国 PM 研究部会 (PMAJCS9) 代表、Agile-Hiroshima、hiroshima.rb、IT コーディネータ広島他多数に所属し、実行運営委員会での活動も積極的に参加しております。